

創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
中間評価報告書

研究開発課題名	精神疾患リスクバリエントに基づくモデル系の活用と多モダリティ産学連携による創薬シーズ及び層別化バイオマーカー開発
代表機関名	国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学
研究開発代表者名	尾崎 紀夫
全研究開発期間	令和5年度 ～ 令和9年度（予定）

1. 総合評価

- ・優れている

【評価コメント】

本研究は精神疾患病態に基づく創薬シーズ及び層別化バイオマーカーの開発に向け、研究計画に準じて適切かつ順調に進み、既に複数の疾患バイオマーカー候補を見出しており、評価できる。特に、リスクバリエントを持つ患者に共通して変化する分子も特定され、今後の研究開発の進展が期待される。また、多業種の企業の役割とその綿密な連携体制が明確であり、マネジメントが極めて効果的に行われている。ただし、各参画企業との連携研究課題がやや多方面に及び過ぎる点が懸念され、本課題の統一目的が十分に共有しがたいので、全体の統一感を保ち、確実に進捗することを望む。

非侵襲的手法として構築中のバイオマーカー解析手法である脳波マーカーや視線マーカーを社会実装化していくことも含め、社会的ニーズの高い精神疾患治療に向け、基盤技術構築を研究開発期間内に具体的な形で達成できるよう、総合的な視野で積極的に研究を推進していただきたい。

以上